「バックミラー」[[1]](#footnote-1)

　大正五年頃當時の青年子女の間に“半島の金色夜叉”として愛讀された朝鮮に於ける最初の新小説『無情』の作者李光洙氏は不幸にも一昨年同友會事件に連座して目下保護中の身を愛妻許英粛の家に寄せて謹愼してゐるが一日“國家に對して忠義の念薄いとてお叱りを受け申譯なく思つてをりますが食のために筆をとることは裁判長のお許しを得てゐます。今何を書くかつて……初めに『無情』を書き二、三年前に『有情』を書きましたので、今度は『多情』を書けつてお節介な人がゐるんですけどね……”

1. 『京城日報』1939年1月31日 バックミラーはコラムのタイトル [↑](#footnote-ref-1)